

環境分野でのグローバルな取り組み

トヨタ自動車(株) 社会貢献推進部 グローバル統括室
 総括 1 グループ グループ長 上橋 智



(上) 空調設備の排水浄化プロジェクトが認められ、2005年のトヨタエコユースで入賞したSMKラ・サル高等学校チーム

(右) 現地紙で報道されたトヨタエコユース活動



トヨタは「社会から信頼される良き企業市民」となることを目指し、豊かな社会づくりとその持続的な発展のため、グローバルな社会貢献活動に取り組んでいる。重点分野としては「環境」「交通安全」「人材育成」の3分野に注目し、積極的な活動を幅広く進めている。本稿では、多様な活動の中から「環境」に関するアジア地域の活動の一端をご紹介します。

トヨタエコユース (マレーシア)

環境改善活動の一環として、マレーシアのUMW トヨタ自動車は2001年、本社周辺の高等学校を対象に「トヨタエコユース」をスタートさせた。2002年からは、マレーシア教育省が同プログラムの教育的価値に注目して協賛することになり、各州から1校を選抜することを目標に、対象校が全国に広げられた。2002年以降は教育省

が参加候補校をピックアップし、UMW トヨタ自動車と協議して最終決定している。

環境教育にトヨタのノウハウを活かす

このプログラムは、毎年2月のワークショップを幕開けとし、約半年間にわたって実施される。参加チームはまずクアラルンプールに集合し、環境上の問題を発見、解決する手法のトレーニングを受ける。このトレーニングは、UMW トヨタ自動車の環境衛生部および品質管理部が実施し、環境教育と日本生まれの「魚の骨図」分析法を含めた高度な問題解決手法を学ぶ。その後、各校で環境監査をおこない、校舎などの施設を対象に、節電や排水処理などに関するさまざまな問題を洗い出す。それらの解決法を1つずつ検討して解決可能なものに絞り、プロジェクトの企画書をUMW トヨタ自動車に提出する。これを受け同社は各校を訪問してその妥当性を審査し、各校の取り組みがスタートする。

取り組み成果は、活動推進中の各校への訪問審査と、8月中旬にクアラルンプールで実施される全国大会におけるプロジェクトのプレゼンテーションと展示で審査され、入賞チームが決定される。なお、クアラルンプールへの交通費、ホテルでのイベント費用はマレーシア教育省が負担し、政府としてもこのプロジェクトを支援してくれている。

「横展開」で周辺諸国へ

マレーシア国内では、新聞やテレビなどの主要メディアが、毎年「トヨタエコユース」の活動の様子を大きく取り上げる。マレーシア政府の注目度も

年々高くなり、教育省に加え環境省もこのプログラムを高く評価している。

このプログラムの意義に対して周辺諸国でも大きな反響があり、2005年からインドネシア版「トヨタエコユース」が誕生することになった。

トヨタは、新しいプログラムの開発とともに、既存の優良プログラムの「横展開」により、環境改善・環境保全活動がなお一層広がっていくことを願っている。



植林前の砂漠



植林5年経過後の状況

砂漠化防止プロジェクト（中国）

いま中国では砂漠化という深刻な問題を抱え、その範囲は中国全体の27%、262km²にも及んでいる。砂漠化は人為的な要因が大きく、家畜の「過放牧」や「過伐採」がその原因となっている。

北京近郊に迫る砂漠

深刻な砂漠化が見られる北京近郊の河北省において、トヨタは2001年に「NPO地球緑化センター」と共同して、日中「21世紀中国首都圏環境緑化モデル拠点」計画のもと、植樹造林プロジェクトを発足した。この活動は単なる緑化ではなく、砂漠化の元凶である「過放牧」と「過伐採」を押さえ、現地農家の経済的自立化のためのビジネスモデルまで視野に入れることを目指している。

2001年4月～04年3月のプロジェクト第1期には、河北省豊寧満族自治県に、1,500haに及ぶ植樹造林を実施。第2期(04年4月～07年3月)では、植

樹造林を進めるだけでなく、植樹造林をおこなった土地の再砂漠化を防ぐことにも重点を置いた取り組みに着手、「過放牧」対策として乳牛モデル農家を育成、また、果樹や薬草を取り入れた緑化を実施し、生態系の復元だけでなく、現地農家の現金収入に結びつくようにした

緑の未来を目指して

開始から5年経過した時点で植栽した樹木の生存率は83%。緑の植物が大地を覆い、あたりは美しい景色に一変した。同地区は、北京や天津の重要な水源地であるため植樹造林活動は「グリーンダム」とも呼ばれ、中国政府からも大きな期待が寄せられている。またこの活動は、(社)日本フィランソロピー協会の第3回「企業フィランソロピー大賞」特別賞（奨励賞）に選ばれた。

2007年5月には第3期4年間の調印式が北京で実施され、植林活動を継続する一方これまでのノウハウを有効活用し、緑化技術の情報発信などの拠点となる「21世紀中国首都圏環境緑化交流センター」が建設されることになった。トヨタは今後この活動が、日中友好発展および砂漠化地域の植林活動のモデルとなり、砂漠が緑の大地に生まれかわることを願っている。

トヨタは今後も地球と社会の持続可能な発展に向けて、トヨタの持つ技術やノウハウを活用しながら、環境をはじめとするグローバルな社会貢献活動を進めていきたいと考えている。



◆◆トヨタの社会貢献活動

http://www.toyota.co.jp/jp/social_contribution/